＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第144回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA）開催の報告

CXLIV Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

日時:2021年6月13日(日)15:00 -17:00

場所:Zoomを利用したオンライン開催

テーマ 「学生にとって価値のある教科書―どう使う？どう作る？―」

参加人数:10名

* Fecha y hora: Domingo, 13 de junio de 2021, de 15:00 a 17:00

* Reunión online con el sistema Zoom

* Tema: " Libros de texto valiosos para los estudiantes: ¿Cómo se usan y cómo se crean? "

* Participantes: 10 personas

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

1. 概要

「学生にとって価値のある教科書」と題した一連の企画の最終回である今回は、購買者としての学生にとっての教科書の価値を高めるために、アンケート結果およびこれまでの話し合い等を踏まえ、教員としてできること・すべきことは何かについて議論した。議論をなるべく具体的に行うため、架空の教科書の企画という形でグループワークを行い、その後全員で考察内容を共有した。

グループワークに先立ち、小川が次のような骨子で、今回の活動につながる考察を述べた。

・学生を教科書の購買者であるという観点から、コストパフォーマンスを上げることは重要であること、教員は教室における教科書の使用、教科書の選定、そして場合によっては教科書の執筆というフェーズでコストパフォーマンスに関与する。

・各大学のスペイン語コースの方針により、教科書が依拠するシラバスには、項目を1つずつ積み上げるもの（たとえば非専攻の初年次で、提示する文法項目を限定する）と、項目をらせん式に扱うもの（初年次に文法を概括的に提示し、2年次により詳細に提示する）がある。また、学生が学ぶ年限や週コマ数はカリキュラムによって異なる。これらを想定して教科書が構成される。

・教科書の物質的な要因（ページ数、色遣い等）は製造コストに関係し、販売価格に反映される。

・以上のような諸条件の中で、教科書執筆者は教科書を創っていくことになる。

2. グループワーク

次に、グループディスカッションで利用するため、同じく小川より、あらかじめ柳田さんと共同で用意した架空の教科書（おおまかな教科書の構成だけを示したスライド）と、いくつかの教科書の類型を 5 つ示した[1]。

1. 説明が簡潔なもの
2. 説明が丁寧なもの
3. 例文に和訳がついているもの
4. スペイン語の体系が 1 冊でわかるもの（らせん型の最初の 1 冊）
5. 習得すべき事項を絞り込んだもの（積み上げ型)」

その後、出席者が 3 つのグループに分かれた。各グループには架空教科書を使用するクラスのタイプが割り振られた。いずれも初年次で 1 年間受講するものとする。

グループ 1：スペイン語専攻のクラスで用いる教科書

グループ 2：非専攻で週 2 コマのうち 1 コマのみで用いる教科書

グループ 3：非専攻で週 2 コマの両方で用いる教科書

3. 議論の内容

の各グループが教科書の企画を行ったり、作成上困難がありそうなことについて学生が満足したり納得したりするような方向での解決策を考察したりした[2]。

・グループ 1 （スペイン語専攻のクラスで用いる教科書を想定）

現状の問題点や解決法、自分の考え方（学生の要望と異なっていても教育する側として譲歩できないこともある）等を話し合い、その上で架空の教科書案を構想した。この実施報告では教科書案のみ掲載する。

【案】

・表紙裏の地図、スペイン 1 ページ、中南米 1 ページだと縮尺が違うので、2 ページ使って大西洋を挟んだ 1 枚の地図にしてもいいかも。

・1 課＝1 授業にする必要はない。ペアとやる場合は、1 課＝3 授業くらい、とある程度決めておくとスムーズなので、課ごとに分けてある必要はある。

---

[1] グループワークや議論をより具体的にするために、既存の教科書を利用する方法もありえた。しかし、特定の教科書についての賛否になることを回避するため、教科書作成の際現実的な制約になる諸条件を明らかにし、そこから内容を途中まで具体化するという方向でグループワークを行った。また、類型は網羅的なものではなく、この日の活動のために、学生アンケートから見られる学生からの要望などからピックアップした。

[2] 以下のまとめは、各グループの話し合いのメモ書きの意味内容がこの実施報告の読者に理解しやすくするため、報告作成者が最小限の加筆修正を行っている。

・練習問題があるとお得感が増える。

・教授用資料内の別冊問題集は便利。

・学生アンケートの要望にみられる矛盾(「説明が丁寧」↔「説明が簡潔」)について、ある程度（説明の）フレームは必要。教授用資料などに補足的に説明が書いてあると授業の時に助かる。

・値段について学生から値段について言われることはしばしばあるが、ある程度値が張るのは仕方がない。

・テキストサイズ：世界標準にあわせる必要はない。

・訳をつけるか:ついているものもアリ。どのみち学生は簡単に訳を得られる。例文和訳に穴を開けるなどの工夫もアリ。

・グループ２（非専攻で週２コマのうち１コマのみで用いる教科書）

話し合いの前提として、週２コマの授業の片方は文法、もう片方は会話等の活動を中心としたものであるとし、後者で利用できる教科書について考えた。

・各課内のレイアウト：最初に、その課でできるようになることが期待されているような会話の見本(modelo de diálogo)があるとよい。

・教科書に提示されている活動の数：多すぎない方がいい。実際に授業で半分も使えないと、教科書が分厚いだけとなり、購入した人にとっては損している感じがするかもしれない。

・会話の理解を助けるため、和訳より状況がわかるようなイラストや写真があるとよい。

・和訳をつけるかどうか：実用的な会話の場合は訳文の代わりに、発話内行為（挨拶する、こちらに来るよう依頼する、価格を尋ねる、答える、お礼を言う等）を日本語で書いておくと、日本語とスペイン語の意味や用法におけるズレによる誤解を防ぐことができる。

・解説：詳しい方がよいかもしれないが、紙面スペースを割かれる。また、先生が説明すれば授業中は必要がないかもしれない。そこで、活動についての丁寧な解説（手順や必要な知識等）を、その教科書本体ではなく、インターネットに掲載し、QR コードなどのリンクをつけてはどうか？

・グループ３（非専攻で週２コマの両方で用いる教科書）

どんな内容で話し合ったか、および具体的な提案は次の通り。

（話し合った内容）

- 文法説明をどれだけ載せるか　過去形ぐらいまで？
- 現在完了はいつやる？
- 何を目指すか　　使えるスペイン語　　話す・聴く・読む・書く

- 会話文か例文か　　初級教科書で会話は必要か
- 教科書記載の説明が少ないと、教員が補足すべき内容が多くなってしまう。
-

（提案）

- 例文と練習問題を充実させる
- ４ページ　　14 回 x ２＝28 回
- 「1 年生の教科書」　安く、ボリュームを減らす→「2 年生の教科書」では内容を豊かにすることに力点を置く

4. まとめ

「学生にとって価値ある教科書」というテーマでの TADESKA の活動は、2019 年の年末のアンケートの企画と実施（学生・教員）、複数の出版社さんのアンケート回答および TADESKA の会合へのご参加、複数回にまたがった話し合いという流れを経て、今回一旦終了した。

TADESKA 世話役としてこの企画でまず示したかったことは、教科書は学生が購入するものであり、教科書の売買は経済活動であるという事実から出発すべきということである。ところが、多くの場合学生は自分では購入する教科書を選べない。そこで、学生がその価値を実感するために、教員や教科書作成者がどうするべきか、何ができるか、ということを大きな柱とした。次に、教科書は出版社とのタイアップで出版されるが、出版社と教員（教科書執筆者として・採用決定者として・使用者として）とのコミュニケーションを円滑にする機会を作りたかった。よい教科書とは、購入して使用する学生、出版社、教員の３者の関係性で作られ、よりよくなっていくものであることを、活動の中で都度確認した。

最終回の今回は、教科書が自由な製作物ではなく、販売価格につながる製造コストや、使用する授業が組み込まれているカリキュラムなど現実的な制約を踏まえた中で、学生の要望と教育活動の理念をどうすりあわせることで、よりよい教科書ができるのかについて話し合った。近年の外国語教科書の傾向として、多くの大学で使われる汎用性の高い教科書と、教学のコンテクストやスペイン語教育従事者の理念の多様性に対応するさまざまな教科書が出版されている。教科書作成者が「こうしたい」と理想を追求することは教育の本質である自由な創造性の根幹と言えるが、学生、出版社、そして教科書を使用する他の教員とをしっかり対話することで、教科書は全体として進化し続けるであろう。また、教科書はそれ自体硬直的な完成物ではなく、授業での教学活動を通してその価値が実現される。そのため、使用する教員はその教科書の特質を理解し、自分が教える学生のニーズや自分の教育目標に応じて柔軟に利用することが求められる。「自分が使いやすい教科書がよい教科書である」という単純な思い込みに陥ることなく、むし

ろ教員自身が学び続ける姿勢が大切であろう。

教科書をめぐるこの一連の企画は、コロナ禍により約1年中断した。まだ、全体をまとめるような考察はできていないが、別の機会に行いたい。毎回のディスカッションの土台としてきた学生アンケート、教員アンケートは、今のところ、次の URL の下部にあるリンクからアクセスできる。

http://tadeska.sakura.ne.jp/JPActas/134/202002.htm

出版社向けアンケートについては、出版社さんの承諾を得次第、TADESKA のホームページ内に公開する予定である。

最後に、この一連の企画にご協力いただいた学生のみなさん、教員のみなさん、出版社担当者のみなさんに、心から感謝いたします。

（報告者：小川雅美）